

8-4-14 砂防・急傾斜専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 砂防・急傾斜専門委員会の開催

専門委員会開催回数：10回

令和7年4月から翌年1月まで月1回の頻度で専門委員会を開催し、本年度検討項目の審議及び技術部会への報告・連絡等を行った。

(2) 活動の目的

近年、気候変動に伴う集中豪雨の増加や火山噴火・地震の発生等により、土石流・がけ崩れ・地すべり等の土砂災害が全国的に多発している。令和7年8月6日からの大雨では、九州地方および日本海側を中心に248件の土砂災害が発生した。また、令和7年7月10日には霧島山新燃岳の噴火・降灰に伴う土石流等が鹿児島県において発生している。令和7年は、37都道府県において578件の土砂災害が発生し、死者2名、負傷者4名、家屋被害236戸の被害が生じている。

当専門委員会では、頻発する土砂災害に対する取り組みや砂防業務の課題を整理・検討するとともに、砂防技術の向上等を目指し委員会活動を実施した。

(3) 令和7年度の活動

a) 当専門委員会の活動状況パンフレット（令和6年度版）を作成した（A3版表裏1枚）。

また、パンフレットは会員及び国土交通省、都道府県砂防部局等に配布し、当専門委員会の活動の周知を図った。

b) 国土交通省砂防部保全課、砂防計画課との意見交換会を10月9日に実施し、砂防関係業務の現状と課題について意見交換を行った。

c) 第16回砂防現地見学会（9月3日開催）

は、北陸地方整備局能登復興事務所管内において、令和6年能登半島地震および奥能登豪雨により荒廃した山地からの土砂流出状況と復旧工事として進められている砂防堰堤施工現場等を対象に実施した。55名の参加があった。

d) 令和6年度業務等に関するエラー事例の収集

と分析を行い資料の取りまとめを行った。品質セミナーは、ビデオ配信で実施した。

e) 第16回砂防講習会（11月26日開催）は、会場対面参加とリアルタイムWeb配信によるハイブリッド方式にて行った。講師として、国土交通省砂防部保全課 綱川 浩章 課長に「『いのち』と『くらし』と『なりわい』を守る砂防」、東京大学大学院農学生命科学研究科 堀田 紀文 准教授に「土砂は動くよいつまでも一山地流域内の土砂動態を概観する」、（一財）砂防フロンティア整備推進機構 蒲原 潤一 研究第二部長に「私が歴史的砂防施設を訪ねる理由」、株式会社本久 小布施 栄 基礎建設事業部次長に「砂防ソイルセメントと砂防施設の地盤改良ー現場から見た土の利活用や普及に向けた課題と提案ー」を講演いただいた。講習会には、会場参加45名、Web参加408名の参加者があった。

f) 若手技術者交流会の活動として、日本大学（10月16日開催）、新潟大学（10月27日開催）の2大学において学生説明会を開催し、合計約220名の学生の参加があった。

2. 次年度の活動について

令和8年度は、国土交通省砂防部との意見交換会等を踏まえ、業務の諸課題を整理しそれらの解決策を提案するとともに砂防技術の向上等を目指し、以下の活動等を行う。

- ・第17回砂防現地見学会の開催
- ・品質セミナーにおいて、エラー事例の収集・分析、講師派遣を実施
- ・第17回砂防講習会の開催
- ・国土交通省砂防部との意見交換会の開催
- ・令和7年度版活動パンフレットを作成し、会員及び関係機関に配布
- ・若手技術者育成のため、砂防若手技術者との交流会や学生説明会を実施

（砂防・急傾斜専門委員会委員長 西井 洋史）